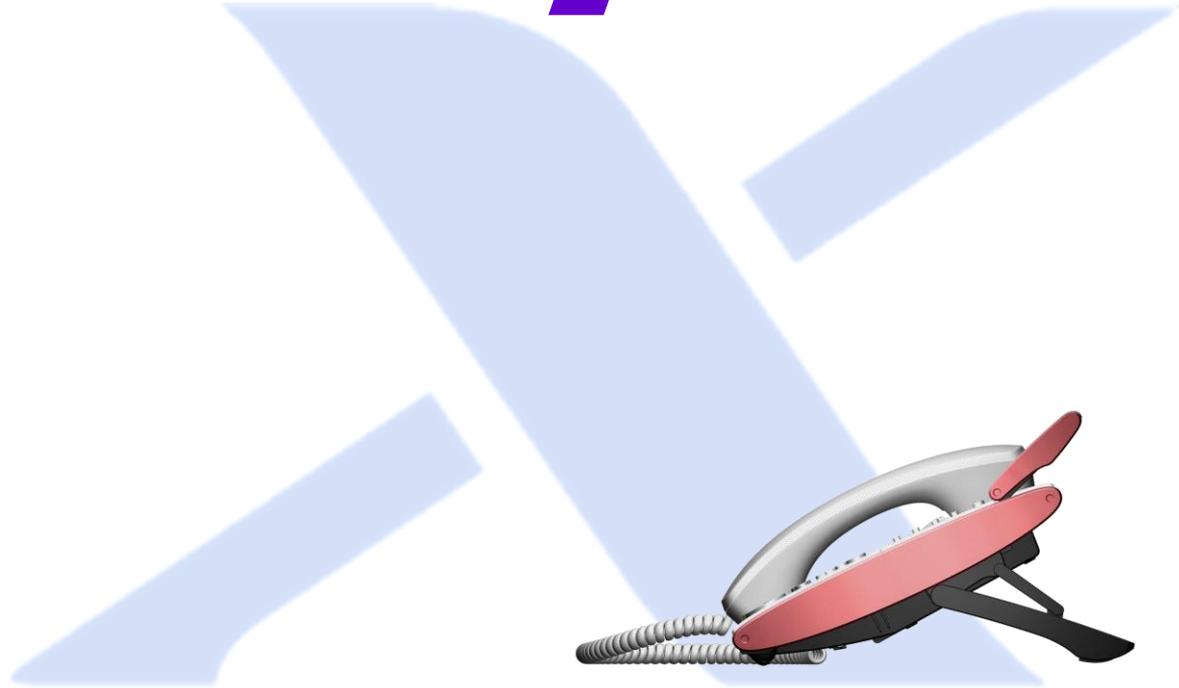


Aspire X

セールスポイント①

Aspire X フレキシビリティ



セールスポイント① Aspire X フレキシビリティ

ポートレンジで機種を選択することなく、小型のモジュールを積み上げる事で物理ポートを増設します。これにより、フレキシブルにシステムを構築でき、既設の設備を流用する事ができます。

※ポートサイズはCPU及びポートライセンスにより選択します。

お客様の事業規模が大きくなった場合も、
既設の設備を流用可能 ⇒ 増設コストを削減できます。

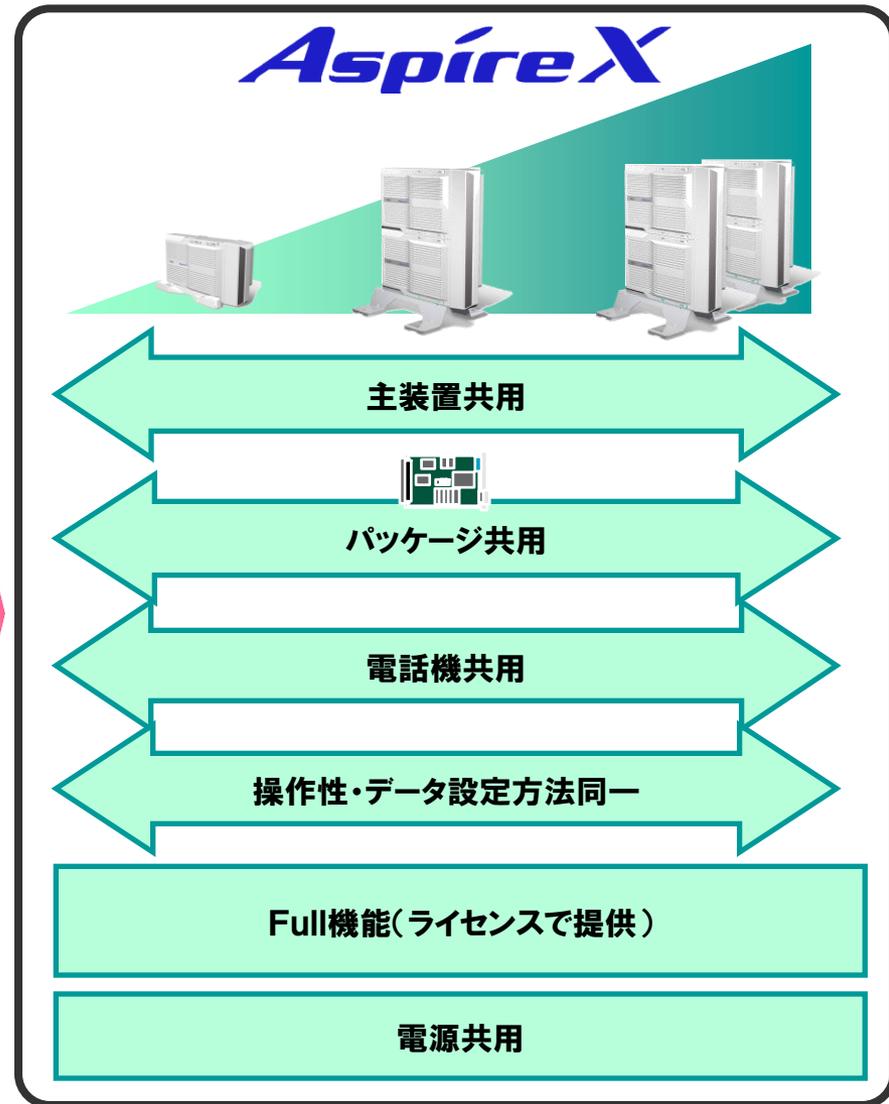
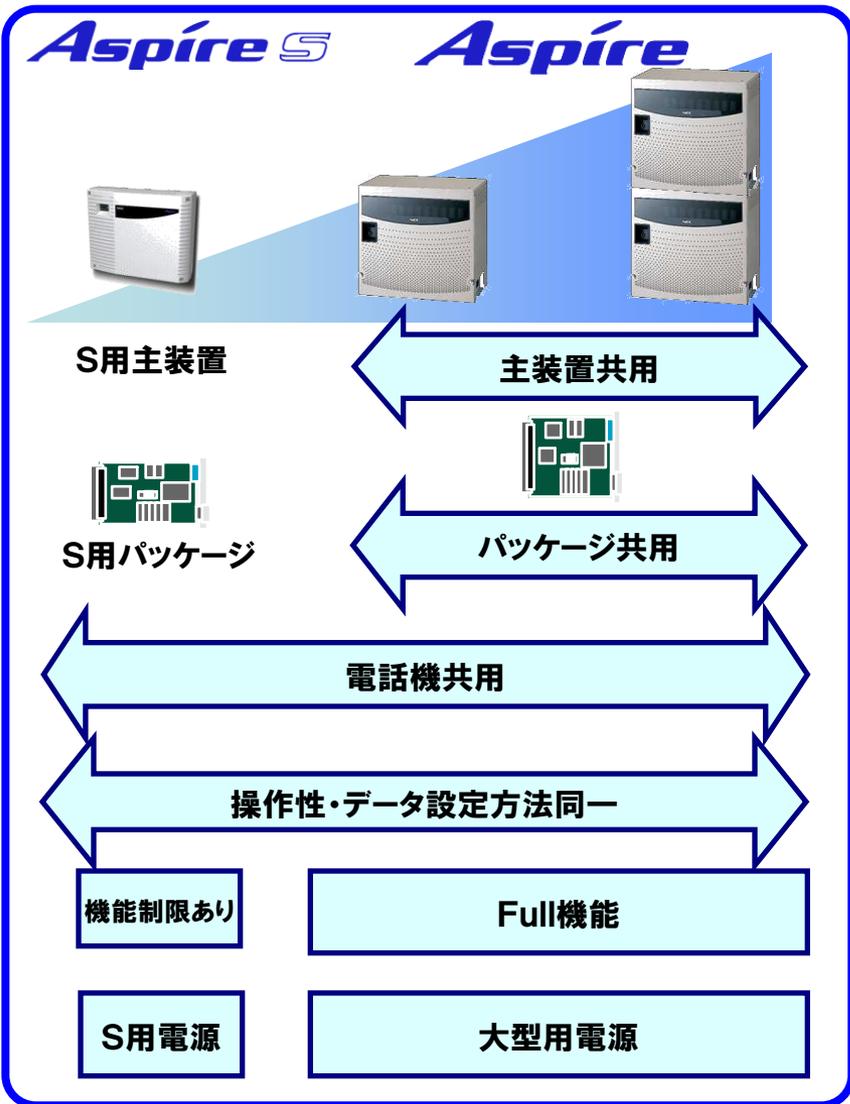
Aspire X



<ポート数によるCCPU、及びポートライセンスの選択>

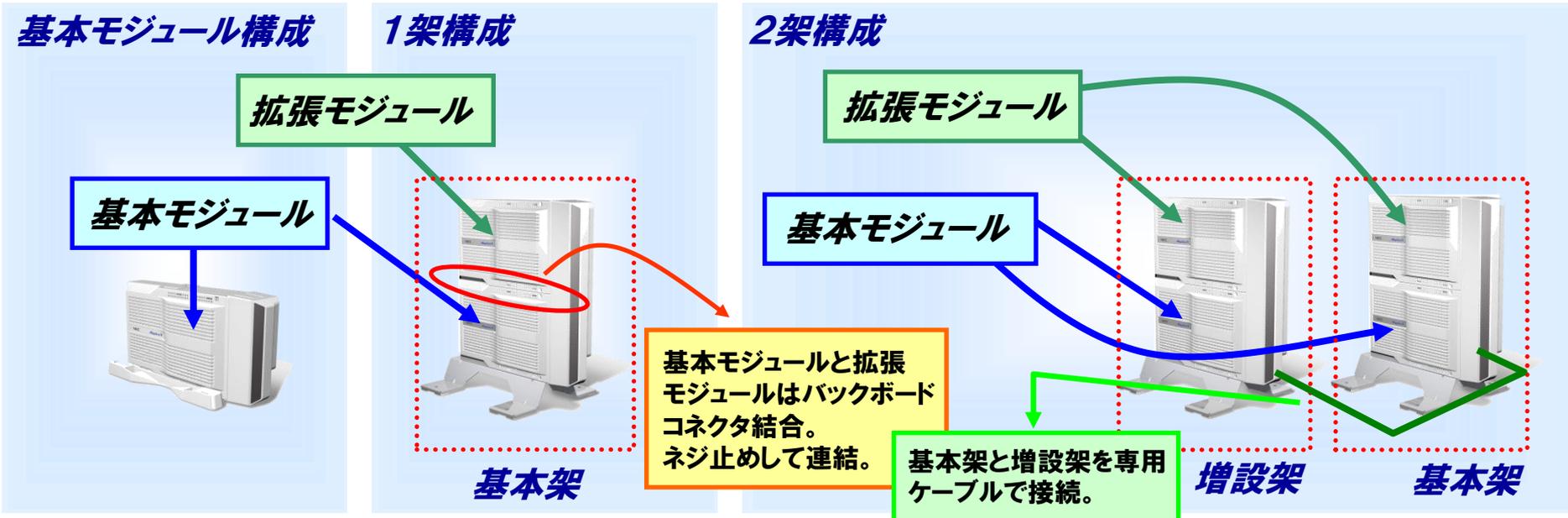
	CPU Aユニット	CPU Bユニット	CPU Bユニット + フリーポートライセンス
外線	12	66(内外線合計 ※外線最大収容数は 64)	200
内線	26 (26ポートとは別にPHS8 ポート接続可能)		512(デジタル多機能電話 機/一般電話機の最大は 320)

AspireとAspire Xの主装置の違い



主装置の構成

Aspireでは基本主装置、増設主装置で構成されていましたが、Aspire Xでは基本モジュール、拡張モジュールで構成されます。



Aspire Xは最大4架構成(基本架1つ+増設架3つ)となります。
また、以下の通り、増設架を基本モジュールのみの構成でも導入可能です。

基本架+増設架(基本モジュール)



基本架+増設架2つ
(増設架2のみ基本モジュール)



基本架+増設架3つ
(増設架3のみ基本モジュール)



主装置の設置形態について

Aspire Xは縦に設置します。※横置き設置(ラックマウント時を含む)はできません。

■卓上設置

基本モジュール構成時、基本モジュールに添付している卓上／壁掛け用品を利用して、卓上に縦置き設置が可能となります。



■床置き設置

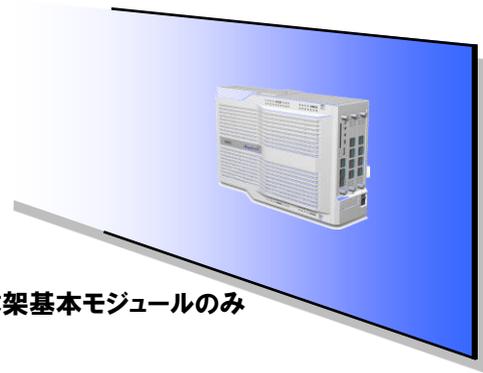
基本架(基本モジュール+拡張モジュール)を床置き金具にて、床面設置が可能となります。床置き設置時はアンカー工事が必要です。



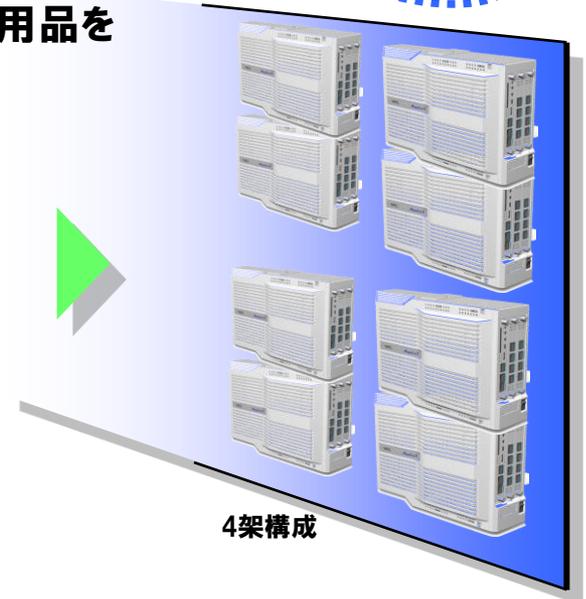
■壁掛け設置

全ての構成において、基本モジュールに添付している卓上／壁掛け用品を利用して、壁掛け設置が可能となります。

基本架基本モジュールのみ



4架構成

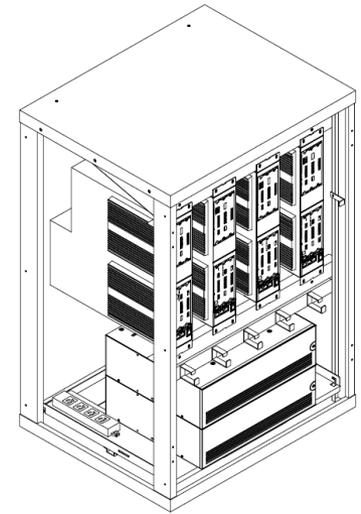


主装置の設置形態について

専用ラックや19インチラックに収める事も可能です。

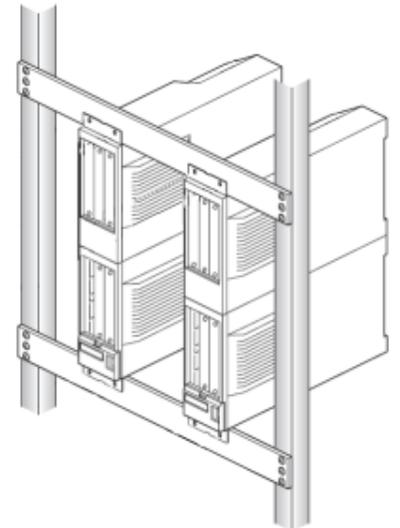
■専用ラック

Aspire X専用ラックに主装置(基本架、増設架)を収容可能です。



■19インチラック

ブラケットを取り付けることにより、19インチラックに搭載可能です。



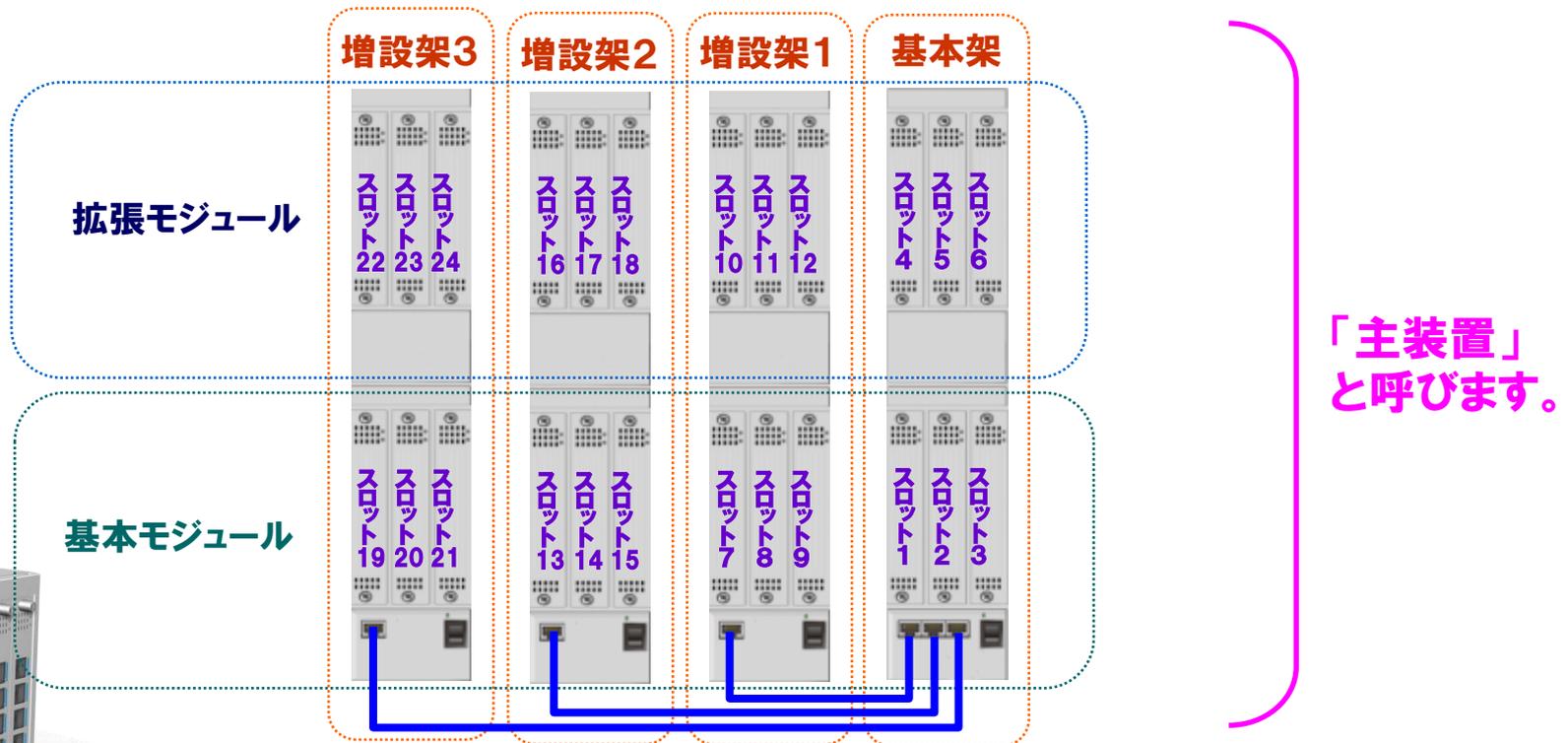
スロット構成と架間接続方法

■スロット構成

- 基本モジュール、拡張モジュール共にユニットを収容可能なスロットは**3スロット**です。
- Aspire Xは**最大4架構成**、最大スロット数は**24スロット**です。
- CCPUは**基本架基本モジュールのスロット1**に収容します。
- 基本架、増設架を組み合わせたものを**主装置**とします。

■架間の接続方法

- 基本架の基本モジュールと、各増設架の基本モジュールを、専用ケーブルで接続します。



【参考】各ユニットの配線について

Aspire Xに収容する各ユニットのコネクタは「RJ-61」を採用しております。
Aspireとコネクタが異なります。

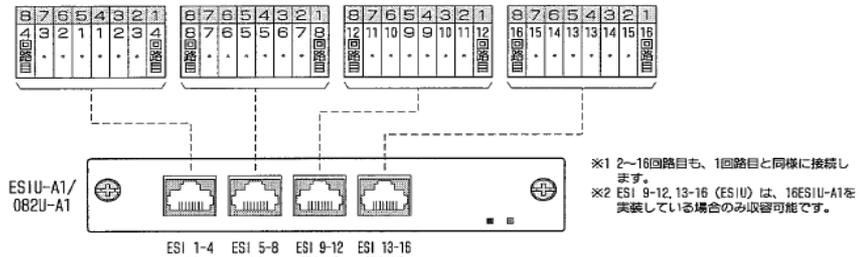
RJ-61ケーブルの結線

RJ-61ケーブルの結線は以下のとおりです。



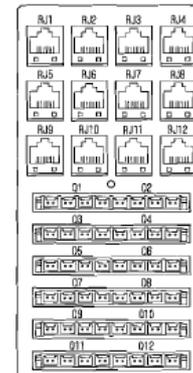
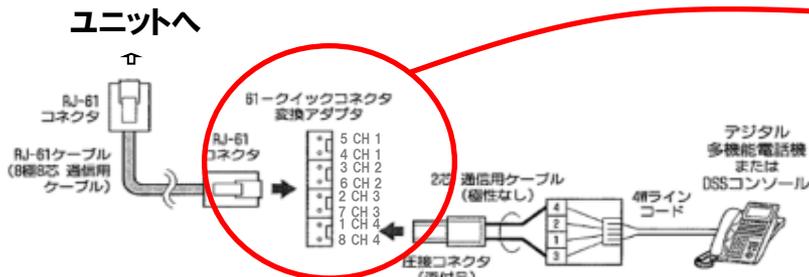
コネクタの結線図

下記は16ESIUコネクタの結線図です。
コネクタにRJ-61で接続し、BIX端子等へ配線してください。



RJ-61ケーブルの結線

配線工事上、RJ-61コネクタから、BIX等の端子に接続することができず、電話機等へ直接配線することが困難な場合には、変換アダプタにて、クイックコネクタ(従来Aspireのコネクタ)に変換し配線することが可能です。



RJ-61ケーブルをクイックコネクタに変換するアダプタ